

＝ 研究協議会記録（上学年） ＝

仙北市立角館小学校

年 月 日	平成27年11月17日（火）
場所・時間	分科会 13:00～14:30（2 梅教室）
授業学級・授業者	4 竹 塩谷 貴 5 梅 鈴木 健之
教科等	学級活動
議題・題材名	4 竹 学級活動（1）ボールの使い方について考えよう 5 梅 学級活動（1）あいさつ運動を盛り上げよう
指 導 者	4 竹 北浦教育文化研究所 所長 浦山 英一郎 先生 5 梅 南教育事務所 指導主事 佐々木 真 先生
司 会 者	鈴木 裕子
記 録 者	高橋 ひろみ

□ 4 年竹組 塩谷貴先生 「4 竹ボールで」なかよくなるろう」

<授業者より>

- ・ 4 月当初の「思いはあるが、なかなか表に出せない」という児童の実態をなんとかしたいと思
いながら実践を重ねてきた。
→ 学級活動シートの活用 他教科での取組
→ 発表に対する抵抗感の軽減
- ・ 1 1 回目の学級会～改善点はあるが、成長が見られた。

<研究協議>

- 生保内小 相澤克彦校長先生
(質問) 勉強係の仕事の内容について
→ 理科専科の先生との学習連絡や学習に関わるお手伝いをする「スタディ係」として発
足。
教室の環境整備など創造的な要素を盛り込んだ活動もしている。
- (質問) 遊び方のルールの内容について
→ 最近、学級で使えるボールの割り当てがあったので、せっかくだから仲良くなるため
のツールにしたいと考えた。そのための約束を前もって決めておこうとする今日の話
合いだった。
- 福田 視点A, Bについて
 - ・ 折り合いをうまくつけていた。が、融合する意見があってもよかったのでは、と思う。
 - ・ 集団決定の場面での「意見が出ついたので…」という司会者の発言がよかった。
- 斉藤 視点Cについて
 - ・ 役割がはっきりしていてよかった。
 - ・ (1)について、ドッジボールとハンドベースボールの2つの遊びに絞った進行も考えられる。
 - ・ 書記はよくがんばっていたが、みんなに見えるように文字の大きさなどを考えていく必要がある。
- 木村 視点Dについて
 - ・ 「みんななかよく」に沿って意見が出されていた。
 - ・ 話し合い後に「約束を守って遊びたい」「パスを回したい」というような感想があり、よかった。
「励まし合う」「声援を送る」なども出てくるといいのでは、と思う。
- 西明寺小 佐藤牧子先生
(質問) ドッジボールかハンドベースボールということになったが、どのようにして決まったか。

→後で「やっぱり…」ということがないようにしたいと思っている。だから、とことん意見を出し尽くしてから決めるようにしてきた。それは、たくさんの意見を聞いて合意に至るということである。また、決める際に、意見が多数のときは「いいですか」と問い、同数のときには少し突っ込んで話し合うように、場面分けをしてやってきた。前提があって話し合いが成り立つ。次はハンドベースボールをやりたいということになっていくのではないかと思う。

○高梨小 深谷隆先生

- ・反対意見を発言するとき、必ず代案を出すという話し合いのルールが定着している。
- ・ルールについては、事前に意見を集約、類別して話し合いをしていた。

(質問)「勉強係」という案を出した子は勉強係だったのか。

→勉強係ではなかった。係の仕事を増やしていこうというスタンスでいるので、そういう提案をすんなり受け入れることができたと思う。

○角館小 鈴子先生

(質問)昼休みに遊ぶのは1種類でよかったのか。

→話し合いの目的は「もっと仲よくなりたい」ということであった。体育館で遊べる日は2日である。せっきくの機会だから仲よくなるためのイベントのようなものとして考えた。

遊びの種類については、はじめは他にもあっていいかと思ったが、今回は1つに絞って話し合った。その方がやりやすい。

何回かやってみて修正点があれば変えていく。

○中川小 齊藤聖士校長先生

- ・話し合いは、たいていすんなりいかない。学級会で折り合いを身に付けていく。内容によっては、もめたり対立したりすることもある。

○塩谷

- ・4月当初はけんかが絶えず、自分以外の考えを受け入れる経験が少ないと思った。そこで、話し合いを重ねて、友達の考えを受容したり認めたりするという経験をさせてきた。発表してよかったというプラスの経験がこの後に生きてくる。
- ・普段の生活の中でも折り合いをつけるという経験を積むことが話し合いにも生きてくる。

○司会

- ・折り合いをつけるときの拠り所、意見を言うときの根拠として学級目標や提案者の願いを大切にしている。

〈指導助言〉

- ・1個しかないボールはトラブルの原因になりがちである。それを使って仲よくなろうというのは良い議題であった。
- ・子どもたちは緊張していたが、めあてに沿って理由を添えてしっかり意見を言っていた。
- ・司会、記録の子どもたちがすばらしく、積み重ねが感じられた。話し合いを上手に進めていた。記録の子どもたちは短時間でまとめて掲示していた。しかし、少し小さかったかもしれない。カードを大きくするか、キーワードだけ書くようにするとか工夫が必要である。
- ・板書は構造的になっていた。めあての時間を示す、「出し合う」「比べ合う」「まとめる」という掲示の工夫もよかった。
- ・中心にボールを置くという場の設定もよかった。
- ・ポイントとして2つ。

①折り合いをつける場面について

民主的に確認して決めていたが、果たして本当に折り合いをつけているのかどうか見極めていくことが大事である。

今日は遊びを1つに絞らせたが、限定することが折り合いにつながったのか。「2つに絞られてきたけどどうする？」という投げかけが欲しかった。

少数意見にも配慮する折り合いの付け方が大事である。

自分の意見を言うだけでなく、友達の意見につなげて発表することも大切になってくる。

つなげることを積み重ねていくことで自然に折り合いがつく。「私は～」「ぼくは～」では多数決になる。

②話し合いの(2)について

(1)とつながらない印象があった。本時は、遊ぶ2日間のことについて話し合いをしていくことでよかったのではないか。例えば、ドッジボールが得意でない子が楽しく遊ぶためのルールを話し合うことが今日のねらいに迫るために必要だったのではないか。

- ・「本当にそれでいいのか」と投げかけるのも教師の出番ではないか。「ボール線おに」には反対意見が多かったが、意見を出してくれたことへの労いや考えが変わったことへの言葉かけをしていくことによって、特活は楽しい時間になっていく。負の思いを抱かせないようにしたい。学級会は意見の戦いがあるべきである。

□5年梅組 鈴木健之先生 「あいさつをレベルアップさせよう」

<授業者より>

- ・時間内に話し合いを終わることができた。
- ・もう少し深めたかった。例えば、恥ずかしい気持ちをなくすためにはどうしたらいいのか等。
- ・見取る観点として2つ設定した。
 - ①自分の意見を発表する。
自信がもてずに発表できない子どもが多い。話し合いを重ねることで自己有用感をもてるようにしてきた。
 - ②よりよい判断をする。
めあてにもどって考えることはよくできた。
「歌声をパワーアップさせたい」実践経験から「ふり返りをする」という意見が出た。
意見の分類・整理が不十分だった。
- ・提示する文言について、どのようにしたら伝わるか悩んだ。
 - (2)「どのような方法で」について、ねらった考えが出てこなかった。どう表現すればよかったのか。
- ・意見の分類整理をどのようにしたらよいか、教えていただきたい。
- ・「解決したい」という意欲付け、課題意識の持たせ方をどのようにしたらよいか、教えていただきたい。

<研究協議>

- 角館中 佐藤心一校長先生
 - ・司会の子どもは、「めあてに沿った考えを」ということについて、最後までぶれずにがんばっていた。
 - ・出された意見について、子どもたちは事前に周知していたのか。子どもは、学んだことは学ばない。(活発に意見が出なかったのは、そこにも原因があったのでは…)
→(1)は比べ合うところから始めた。意見は事前周知しておいた。(2)で「あいさつ運動」というアイデアもあったが、意見として出されなかった。
 - ・この後、5梅の子どもたちがどのように行動していくかが大切である。
- 三輪小 佐々木瑞子先生
 - ・あいさつについて、全体ではよい評価であるが、個人レベル(普段、休み時間等)では課題がある。その部分について話し合いをしていく。
- 太田北小 今野天美校長先生
 - ・「レベルアップ」について、教師はどのようなイメージをもっていったか。
気持ちの中で士気が上がっていくように。
 - (質問)「4の声」とは、どれくらいの声なのか。
→「声のものさし」の「4」、教室の中でだれにでも聞こえる声ということ。
 - ・教師の助言(出番)がよかった。
 - (2)で「出し合い」のときに意見が出てきたとき、「今は出し合いの時間だからね」と軌道修正していた。意見が滞ったとき、「レベルアップということで考えてみたら」とヒントとなる視点を与えていた。
 - 終末の先生の話の中で「10人以上というのは目標に入ってくるね」と採用されなかった意見をフォローしていた。
- 横堀小 佐々木朋也先生
 - ・事前の準備が素晴らしい。
 - ・話し合うことの難しさを感じた。折り合いは、意図して盛り込まなければならないし、教えていくことも必要である。「自分の意見はめあてに合わないから取り下げます」というように言わせたい。折り合うことを価値付けていくことで、子どもたちは分かっていく。
- 司会
 - ・本時は、賛成意見の理由を視点に沿って色分けして掲示していた。
- 豊岡小 細川誠先生
 - ・「出し合う」「比べ合う」「まとめる」、何をやる時間か示していてよかった。
 - ・司会が上手に進めていた。
 - ・記録の子どもたちも素早く対応していた。
 - ・取り上げられない意見にも心を配りたい。
学級で足りないのはどんなことだろう、レベルアップするためにはどうしたらいいだろう、～はできているんだね など。

〈指導助言〉

- 課題意識をもって話し合うことが前提である。
あいさつに関する学級の弱点，良さを掲示していた。特にがんばることや方法がきまってよかつたなという思いにつながった。
- Aについて
時間配分を意識した話合いがなされていた。
(1)は「比べ合う」から，(2)は「出し合う」からだったが，どちらも「比べ合う」というところに期間をかけていた。じかんを意識した話合いを重ねることで，真剣さや折り合いをつけるということが学べる。
教師の出番として，「出し合う」場面での軌道修正のための助言と「まとめる」場面での「賛成の意見8つくらいで決めていいのか」という問いかけがよかった。
- Bについて
キーワードがしっかり明示されていた。
課題が2つはっきりしていた。克服することがレベルアップにつながるということが分かる。
視点に沿った短冊の色分けが効果的だった。
これまでの経験（歌をパワーアップさせたこと）が生かされていた。
- Cについて
出された意見は，どれもいい意見であった。賛成意見をたくさん出し合って決めていくというやり方。「恥ずかしい気持ちをなくす」という意見について，なぜ恥ずかしいのか，掘り下げる必要があったのではないか。本音の部分を話合いに出していくことも大切である。
- (1)と(2)の混同について，『みんなで』レベルアップ」ということをキーワードにしたらどうだったか。
- まとめる段階で決めてから少数意見の人に「いいか」と問うていたが，そこでよかったのか。決める前に聞いてみたらどうか。
- 司会，記録の子どもたちはよくがんばっていた。指導の賜である。
- 「めあてに沿った考えがありますか」と司会が言っても，よく意味が分かっていない子どもがいた。そういうときは，司会を助けたり自分が確認したりするためにも質問するようにしてほしい。
- 参会の先生方においては，取組の良さを自校にもち帰って実践に生かしてほしい。